

エネルギー環境教育の ひろば

北海道エネルギー環境教育
研究委員会 広報部会
令和6年(2024年)
3月8日(金)発行
第56号



令和5年度全体学習会開催—令和6年2月17日(土)—



香西 尉男 委員長

令和6年2月17日(土)、北海道エネルギー環境教育委員会令和5年度全体学習会をホテルライフォートにて会同して開催した。学習会の冒頭、香西尉男委員長より、次年度の研究大会を11月に「札幌市立手稲北小学校」で開催する旨の報告があった。また、さらに組織強化していくことを確認した。

そして、「道東支部研究大会の授業は、子どもたちが太陽光発電（エネルギー）と釧路湿原（環境）共に大切にしなければいけないことを5年生の子どもが真剣に考え、様々な意見が出された素晴らしい授業であった。新しいベストミックスを考える下地でもある。本日の授業報告で、大会に参加できなかった方も学ぶことができ、とても嬉しい。」と本日の学習会への期待を寄せる挨拶があった。

道東支部授業実践報告～小5総合的な学習の時間 「私たちのSDGs～釧路×環境×エネルギー」

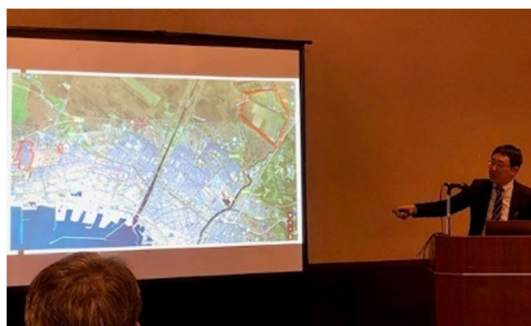
続いて、11月30日(土)に釧路市立鶴野小学校で行われた総合的な学習の時間の授業について、授業者の小野寺隆教諭による授業実践報告が行われた。

小学5年生を対象とした「私たちのSDGs～釧路×環境×エネルギー」という単元で、SDGsの目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と、目標15「陸の豊かさを守ろう」の2つの目標について考える授業実践である。この授業は、「話し合い活動を通して、世界のエネルギー問題の解決のためのふさわしい発電方法について、太陽光発電の必要性和釧路湿原の自然環境保全という対立する問題の解決方法等の学習課題に対して、自分の立場やその考えの根拠を積極的に伝えることができる。」ことを目標として行われた。

本時では、「SDGsの目標7の達成のために、釧路で太陽光発電をさらに増やした方が良いか。」という課題のもと、話し合いを通して課題解決がなされることを目指して授業が進められた。本時の課題を子どもが自分事として捉えられるように、それまでの学習の中で、世界を取り巻く発電の状況や様々な発電方法の特徴を調べ、太陽光発電がSDGs目標7の達成に必要なものであると学んできた。しかし、本時の前に行われた釧路市役所の方による出前講座において、釧路という地域で考えると、大規模な太陽光発電の開発により、地域の大切な宝である釧路湿原の生態系に影響が出ているという問題が起きていることを知った。地域で実際に起こっている問題を授業の課題として考えることで、子どもたちは、

自分の地域の問題としてこの課題に向き合い、真剣な態度で話し合いを行うことができた。

本時までの授業を通して、この問題に対する課題意識が高まり、もっとこのテーマについて深く探究したいという子どもたちの状況を踏まえ、計画よりも探究の時間を増やすことになった。個人がさらに追究したいテーマの設定し、テーマが似通ったメンバーで小グループを形成して調べ学習を進めることにつながったとの報告がなされた。その後は、参観日において保護者や地域の方、そして出前講座で教えてくださった講師の方を招き、報告会を開催する予定である。



小野寺 隆 教諭



小学5年生という段階にあっても、SDG sの目標の達成を目指そうという意識、そして、自分の地域の大切な自然である釧路湿原を大切にしようという意識は、持続可能な社会の担い手としての基盤となるものであると考える。この学習を通して、グローバルな視点でエネルギーや環境について考える人、そしてローカルな視点で自分の地域への愛着をもち、地域の自然を大切にしようという思いをもつ人の育成につながることを願う。

学習会『エネルギーに関する勉強会』

提言者： 札幌市立あやめ野中学校 森山正樹教頭

次に、大会の総括と本会研究の方向性について、研究部会：森山正樹教頭（あやめの中学校）から説明があった。右に示したスライドのように、本研究委員会の22年間の実践や研究内容について資料をもとに説明があった。また、本研究委員会の



森山 正樹 教頭

全道大会の在り方や令和7年8月に行われる予定の日本エネルギー環境教育学会の北海道大会について説明があった。この研究委員会はいろいろな研究団体から組織された、全国的に見ても大変めずらしい委員会であり、本会ならではの「子どもに育みたいエネルギー環境教育の力」を考えていきたいという話があった。また、これまでに森山教頭が実践してきたエネルギー環境教育についての紹介があった。北海道大学のHPに授業実践が紹介されており、そのイントロダクションの動画を上映して説明した。次年度は札幌で全道大会が開催されるため、本委員会で全力を挙げて成功に導きたいとの説明で締めくくられた。

また、北海道電力株式会社の石出伸一広報部長からは、エネルギーを取り巻く世界的な状況（カーボンニュートラル・オイルショック・ウクライナ情勢・安定供給・・・）と今後予想さ



石出 伸一 広報部長



林 潤 主任

れる動き（水素系・アンモニア・ベストミックス・再エネ活用・・・）についてお話があり、同社広報部広報推進グループの林潤主任からは、泊発電所の審査状況（活断層・防潮堤等）と次世代教育のご案内について情報提供があった。

第2回役員会開催

全体学習会に先立ち、第2回の役員会が行われた。香西委員長の挨拶の後、長堀幹事長より会議報告・札幌大会報告、各部長より部会活動報告、各支部長より支部活動報告、令和6年度に向けての活動日程の提案とともに、研究大会のもち方や、組織の在り方などについて意見が交わされた。今後、組織の拡大や活動の工夫など会議での意見をもとに検討していく。

なお、令和6年度の総会は5月18日（土）に開催を予定している。



2024/2/17(土) ホテルライフォート札幌 北海道エネルギー環境教育研究委員会 全体学習会

研究部会 札幌市立あやめ野中学校 教頭 森山 正樹

<今日の流れ>

- 本会が考える「子どもに育みたいエネルギー環境教育の力」の作成
- 本研究委員会の研究内容について
- 今後の全道大会に向けて(R6札幌、R7道南、R8札幌、・・・)
- 日本エネルギー環境教育学会 北海道大会(R7.8.8~10北大)
- 紹介：森山が所属した学校におけるエネルギー環境教育について

配布資料について

- 小中9年間で子どもに育みたいエネルギー環境教育の力 ⇒ R7.8までに北海道の案をつくりたい
- 持続可能な社会づくりの担い手となる子ども像 ⇒ これを具現化するための手立ての構築
- 『生きる力』を培うエネルギー環境教育の実践（研究部会からの資料） ⇒ 全道大会へ向け
- 全道大会の「学習案」について、「学習案」作成の枠 ⇒ 事務局からWordデータを送ります
- 札幌市立白石中学校での実践①（電気新聞 第13回エネルギー教育賞に応募作品）
- 札幌市立白石中学校での実践②（第37回東書教育賞への応募論文）
- （資料なし）北海道大学のHPに紹介されている授業映像、資料の紹介
https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/sustainable-society-and-energy?movie_id=26050

(参考)原価算定上の泊発電所再稼働時期について

当社は、電気料金の見直しに関する説明の中で、原価算定上の泊発電所3号機の再稼働時期を2026年12月と設定しました。現在、原子力規制委員会による新規規制基準適合性審査を受けているところであり、実際の再稼働時期を見通すことは難しいものの、原価算定上、2026年12月に設定していることを踏まえ、早期再稼働に向けて総力を挙げて取り組んでいきます。

<原価算定上の泊発電所再稼働までの工程>

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
設置事業許可審査					
設計審査					
使用許事業審査					
新設的増設工事（準備工事・本体新設工事）等					

令和6年度総会開催のご案内

- 日時 令和6年5月18日（土）
○受付開始 13:00 ○開会 13:30 ○終了予定 16:00
- 場所 ホテルライフォート札幌
- 内容 ○エネルギーに関する学習会
○役員人事発表、年間活動計画審議

<今後の予定>

- 研究大会 令和6年11月29日（金）札幌市立手稲北小学校
- 全体研修会 令和7年2月15日（土）ホテルライフォート札幌